

四谷の

千枚田だより



第178号

を図りながら会場づくりを精をだした。

七時、打ち

お田植え感謝の夕べ

く灯そう千枚田く

六月二日、鞍掛山麓千枚田保存会は連谷公民館関連役員や住民の協力を仰ぎ、「灯そう千枚田」が盛大に開催した。

当日、早朝八時から会場作り、バザーの仕込み等々、それぞれが「あだ、こうだ」とコミュニケーション

上げ花火を合図に松下誠の軽快な司会で開始された。

冒頭、小山舜二保存会会長は「お田植え感謝の夕べ」の総括として、一番嬉しいのは、この、催しは十三年間、一度も雨に祟られず、開催できたこと、これも、地域の皆さんや参加者の千枚田・故郷を想う心の賜物と、お天等様にも感謝。今、あち



こちの棚田などで催されているキヤンドルナイトのルーツとしても誇り高い催しであり、継続もしたい。そして、連谷地区が一体となり「むらづくり、絆づくり」の場となれば嬉しいし、期待もしたい。なお、この催しは皆さんの志、協力金から成り立っている。どうぞ、ご遠慮なく協力金箱をご利用ください。と、開会挨拶。

また、穂積市長さんご夫婦、柴田賢治郎地元議員、駆けつけて頂いた今枝宗一郎衆議院議員の先生方の挨拶を頂き、お田植え感謝の夕べく灯そう千枚田くが開始された。

会場では公民館関係役員の千枚田ならではの名物「鳥長」の皮肝や焼きそば、フランクフルト、飲み物などを威勢よくアピール。保存会は捕獲した有害獣のイノシシを資源の有効活用として大はそり三杯を大判振る舞い、棚田っ娘は五平餅の販売。等々で、おもてなしをした。

千枚田の畔や作業道に灯された千五百本のロウソクが夕闇に幻想的に浮かび上がり、天空には十五発の花火が華を添え「ごんげらぼう」を盛り上げた。

九時、閉会の号砲を合図に松下尚弘連谷公民館長から皆さんの力で「灯そう千枚田」が盛況に終了したことを感謝の言葉で述べた。

保存会総会(既報)

五月十二日、鞍掛山麓千枚田保存会総会が連谷公民館で行われた。提出された議事・議案事業報告、会計報告(ほか)はすべてがシヤンシヤンで散会、新年度へ始動した。

二十九年度の主な事業として

- ① 新城市鳳来北西部地域自治区域活動交付金事業の採択を受け、千枚田環境整備活動(草刈り二回)の実施。鳳来北西部案内看板の作成。
- ② 灯そう千枚田の開催。
- ③ 収穫感謝祭の開催。
- ④ 第二十三回棚田(千枚田)サミットへの参加。
- ⑤ 第三回。パワートレイルへの支援。
- ⑥ その他の事業、行事については「四谷の千枚田だより」に掲載していることから省略する。



景観整備

五月二十六日、保存会は千枚田入口付近とふれあい広場、また、灯そう千枚田を視野にした環境整備「草刈り」を行った。午後は公民館関係役員と合流、旧連谷小学校グラウンドの草刈り作業を実施した。



鳳来中部小学校宿泊体験学習

五月二十四日、同校五年生と先生二十六名がやまびこの丘宿泊体験学習「新城の三宝を学ぶ」の一環として千枚田を訪れた。子どもたちは多様性に富んだ千枚田を体感、自然環境、文化などの説明にも興味深々、瞳が輝いていたのが嬉しかった。

鳳来寺小学校の田植え

五月十八日、同校五年生(十一人)の田植えが小さな三枚の田んぼで泥だらけになりながらも楽しく、真剣に田植えを行った。



新城高校の田植え

五月十九日、同校農業クラブ(二十六人)は原田英史(理事)の指導で田植えが行われた。

冒頭に、原田理事の指導による千枚田の取り組みは十年になる。同校は平成八年から千枚田保全に尽力

されて頂いていることも含め、学校統合で今年が最終年となるのでなく、新しい学校になっても引き継ぎ、多様性に富んだ「四谷の千枚田」の保全継承に若い力を貸して頂きたい。と挨拶をした。

当日は、新東名を走るラッピングバス(後部に千枚田の実りの秋がラッピングされている)に生徒たちが乗ってきたのは圧巻であった。

田の草取りと梅取り

六月七日、豊橋調理製菓専門学校は田の草取りと梅取りを行った。

生徒たちは自らが植えた早苗の生長に感動、せつせと田の草取りに勤しんだ。生育調査では植えた苗の生長、分枝なども調べた。

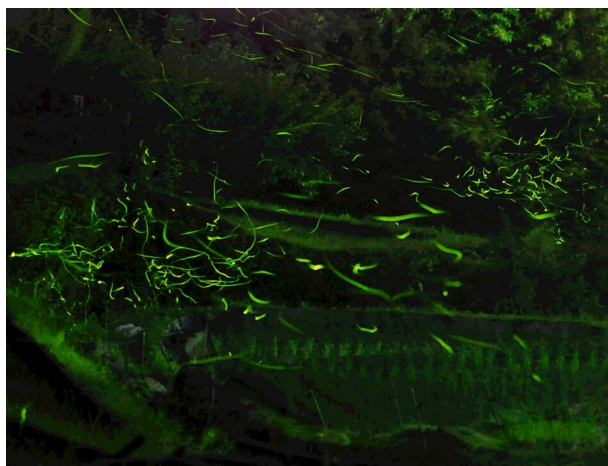
また、毎年協力頂いている松下正男さんの梅園で梅取りも行った。

環境五市サミット

第九回中部環境先進五市サミット
〒新城 日時 平成三十年七月六日(金曜日) 場所 新城地域文化広場
内容 今回は「次の世代につなぐ環境活動のタスキ」をテーマに新城市で開催します。【環境五市 多治見市、安城市、新城市、掛川市、飯田市】

ホタル(ゲンジボタル)

平成二十二年、生物多様性条約第十回締約国際会議(CO10)を愛知県・名古屋市長に四谷の千枚田が貢献したことを契機に「ホタルの舞う千枚田」を夢に、餌となるカワニナなどを近くの合戸川から採取、与え続けたり、耕作者の協力を得て環境を整えてきた結果、年ごとに増え、今年ホタルの乱舞が充分楽しめるまでに至った。



発行 平成三十年六月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二